

報道発表資料の配付日時 12月6日(火)

発表項目 (行事名)	令和4年度森と人を育てるコンクールに係る表彰伝達式の開催について
概要	<p>全道の各地域において適切な森林整備を実践し、模範となる優良林分を育てている森林所有者及び木育活動の実施者を評価、表彰し、林業技術の向上や森林づくりに対する道民の意識高揚と参加促進を図るため、森と人を育てるコンクール実行委員会が主催して、標記コンクールを実施しています。</p> <p>今年度の森林所有者部門（カラマツの部）では、足寄町在住の加藤勝典氏が足寄町芽登に所有する林分で標記コンクールに参加し優秀賞を受賞したことから、次のとおり伝達式を開催します。</p> <p>1 日 時：令和4年12月16日（金）14:00～14:30</p> <p>2 場 所：足寄町役場 2階町長室 （足寄郡足寄町北1条4丁目48番地）</p> <p>3 受賞者：加藤勝典（かとう かつのり）氏</p> <p>4 伝達者：北海道十勝総合振興局森林室長 中村 喜裕</p> <p>5 令和4年度森と人を育てるコンクール実施要領及び受賞林分の概要については、別紙のとおりです。</p>
参考	本コンクールは平成18年度から実施されている「ほっかいどう地球温暖化防止貢献の森林づくりコンクール」の後継となるコンクールで、足寄町内では3人目の受賞となります。
報道(取材)に当たってのお願い	
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク 記者レク
その他	
担当 (連絡先)	北海道十勝総合振興局振興局森林室足寄事務所（担当：法島・乙井） TEL0156-25-3510

令和4年度森と人を育てるコンクール実施要領

1 趣 旨

全道の各地域において適切な森林整備を実践し、模範となる優良林分を育てている森林所有者及び木育活動の実施者を評価、表彰し、林業技術の向上や森林づくりに対する道民の意識高揚と参加促進を図る。

2 名 称

令和4年度森と人を育てるコンクール

3 主 催

森と人を育てるコンクール実行委員会（以下「実行委員会」という。）

（公益社団法人北海道森と緑の会、一般社団法人北海道造林協会、北海道森林組合連合会、北海道の四者で構成し、公益社団法人北海道森と緑の会理事長が実行委員長を務める。）

4 事務局

実行委員会の事務局は、公益社団法人北海道森と緑の会に置く。

5 実施方法

（1）参加資格及び対象林分

○森林所有者

参加資格

- ・ 民有林のうち私有林（展示林、普及施設等の普及指導に利用されている森林を除く。）の森林所有者。

参加基準

- ・ 森林経営計画を作成し、森林の適切な管理・育成により、地域の模範事例と認められる次の林分
- ・ 過去に「ほっかいどう地球温暖化防止貢献の森林づくりコンクール」の表彰を受けた林分（最優秀賞は除く）であっても、受賞の翌年度から5年以上経過し、新たに間伐等の施業を実施した林分も対象とする。ただし、出展回数は2回を限度とする。

樹種：トドマツ、カラマツ類（グイマツを含む）（以下カラマツという）、アカエゾマツ、スギの人工造林地

面積：トドマツ、カラマツ、アカエゾマツは0.50ha以上
スギは0.30ha以上

林齢：トドマツ、カラマツ、アカエゾマツは31～45年生
スギは31～55年生

○木育活動を行う団体等

参加資格

- ・ 木育活動（植樹・育樹は必須）を積極的、継続的に実践している団体・企業等
- ・ 過去に「ほっかいどう地球温暖化防止貢献の森林づくりコンクール」の表彰を受けた団体（最優秀賞を除く）であっても、受賞後5年以上を経過している場合は参加資格を有するものとする。

参加基準

- ・ 木育活動（植樹・育樹は必須）を5年以上継続していること

（2）参加申し込み

参加者は、参加申込書（様式第1号、様式第2号）に別表1の資料を添えて、7月15日（金）までに各（総合）振興局森林室又は林務課（以下「振興局森林室等」という。）へ提出する。

振興局森林室等は、予備審査により、森林所有者に係る3部門の中から1林分以上と、木育に係る1団体・企業等を選定し、別表2に掲げる資料を7月22日（金）までに水産林務部森林環境局森林活用課に提出する。

なお、渡島総合振興局東部森林室、渡島総合振興局西部森林室、檜山振興局森林室については、地域の主要樹種がスギであることから、森林所有者に係るスギ部門での提出を必須とする。

(3) 一覧表の提出

森林活用課は、参加申込書等の内容を確認のうえ、参加部門ごとの一覧表を添付して事務局に提出する。

(4) 審査の実施

審査は、実行委員会が別に定める「森と人を育てるコンクール審査要領」による。

(5) 審査基準

別紙1、2の「森と人を育てるコンクール審査基準」による。

(6) 表彰

森林所有者（トドマツ・アカエゾマツ、カラマツ、スギの3部門）、木育（1部門）の各部門ごとに、次の入賞者を決定し表彰する。

最優秀賞	1点	北海道知事
優秀賞	最優秀賞以外で優秀と認められるもの	実行委員会委員長
奨励賞	優秀賞まで入賞以外の参加者	実行委員会委員長

別表1

区 分	提 出 資 料
森林所有者	写真（林分全体の状況・特徴がわかるもの、標準地、枝打ち等の状況） 位置図（5万分の1）、 地域森林計画図（5千分の1）
木育活動を行う団体等	写真（活動状況等）、位置図（5万分の1）、 活動実績書（様式第3号）

※写真はJPEGデータで提出

別表2

区 分	提 出 資 料
森林所有者	予備審査表、総合審査表、平均樹高算出表、標準地調査野帳、収穫予測ソフト（トドマツ、アカエゾマツ、カラマツ、スギ）、収量－密度図（アカエゾマツ）
木育活動を行う団体等	予備審査表、総合審査表

※収穫予測ソフトは、調査内容等を入力したデータを提出

優秀賞受賞林分の概要

加藤勝典氏



『令和4年度森と人を育てるコンクール』
カラマツの部 優秀賞受賞林分

北海道十勝総合振興局森林室足寄事務所

○令和4年度森と人を育てるコンクール

部 門：「カラマツ」の部 優秀賞

所 在 地：足寄町芽登

林 小 班：4林班24小班

面 積：2.20ha

樹 種：カラマツ

林 齢：37年生

植栽本数：2,500本/ha

現存本数：633本/ha

材 積：266m³/ha

平均樹高：21.2m

平均直径：23.1cm

植 栽 年：1986年（昭和61年）

◇ 保育経過

年度区分	1996	2000	2009	2015	2021
つる切り	○				
除 伐	○				
枝打ち	○		○	○	
間 伐		○	○	○	○

◇ 施業上の特筆点

- ・森林整備地域活動支援交付金等を活用して自力で作業道を開設し、延長は5,970m（路網密度は142m/ha）あり、自力で間伐した際には軽トラックにより丸太の搬出を行っています。
- ・間伐する際には、相対幹距比（ S_r ）により立木の混み具合を判断し、選木しています。
- ・野ねずみ対策として、自力で下刈や薬剤散布を行うほか、エゾシカ対策として、自作したエゾシカ侵入防止柵を設置すると共に立木に網を巻くなど、工夫を凝らした保護管理を行っています。

◇ 経営上の特筆点

- ・高密度路網を活用し、容易な山林巡回と作業の効率化を図りながら、「長伐期施業による経済価値の高い山づくり」を目標に、適期の除間伐や枝打ち等を自ら実施しながら、低コストな林業経営を行っています。
- ・軽トラックに500kgまでつり上げ可能なクレーンを取り付けており、荷台に積み込んだ丸太を足寄町内の製材工場へ持ち込み、有利な販売を行っています。
- ・平成19年春にスーパー F1（クリーンラーチ）を全道に先駆けて植栽（0.10ha）し、優位性の実証と地域による指標とするため、成育調査を継続しています。

◇ 所有林の概要

（単位：ha）

年齢級		1年齢級	2年齢級	3年齢級	4年齢級	5年齢級	6年齢級	7年齢級	8年齢級	9年齢級～	計
人 工 林	カラマツ	0.38	3.38	0.76		7.36	0.56	0.52	5.15	21.31	39.42
	アカエゾ			1.90	0.80					0.16	2.86
	シラカバ									0.20	0.20
天然林					0.56	0.41				7.44	8.41
無立木地		0.88	1.83								2.71
計		1.26	5.21	2.66	1.36	7.77	0.56	0.52	5.15	29.11	53.60

・所有する森林は、53.60haである。うち人工林は42.48haで、全森林の（79%）を占めています。人工林のうち、カラマツが39.42ha（92%）、アカエゾマツが2.86ha（7%）、シラカンバ0.20ha（1%）となっています。

天然林等は11.12haで、全森林の（21%）となっています。

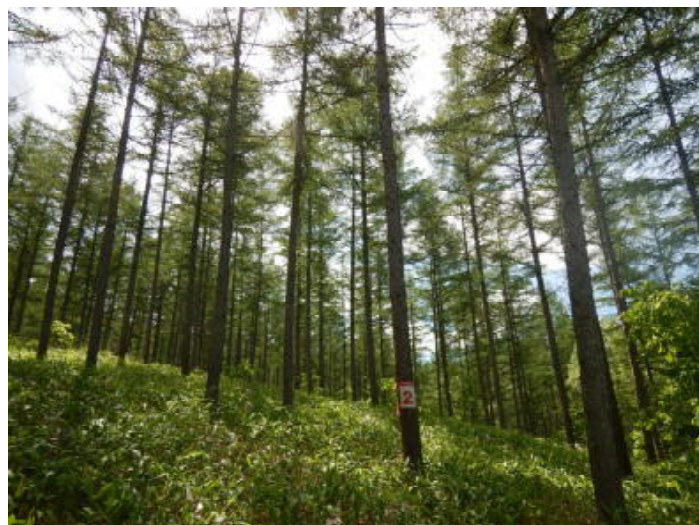
（資料作成 令和4年12月）



全景



標準地 1



標準地 2



標準地 3